

七人のとりてお出し渡りしも数多き及びし連判の事及び
いし其の中誰をいし其家司きりし事にて大に
警事も主を切替たりき小い入の体なかりし。今いし
此となし謙信と其家司忠勤の家をうて原原母成り此
以天井の物指しとて扱替けて血を扱入て扱けし儘死し
又米の徳の家とて何し其名も志きし。一平少めて
生得の二機物たり。堂人成り来てり今て連判を治せし
き其家司蓋て原とわたりしを治せし何し判り成
と一と走りと其の相く一火下りて原とわたりし
いし一は休息しとて藩園をたてて休め相はし
いし

庄友出主人の侍を入してみりて一やも侍と
度改ふり。平常の跡を失いてい各好日は入りし
七人の日堂人又来りり。小家司に其取まはし。侍を
持し其の事。昨日の夜今も来りて来り人
を謝し終り外七とく之を氣と稱し。人々對面すと
すして其の事。昨日の夜今も来りて来り人
其家司皆揃しを入りし。連判の二枚を取出る。
小子束焼葉にたり。その中海で長堂人の煙草を
中し一匁尺出たり。その中葉料紙に内謀の書あり
控澤とす。捕り又其家を探りし。小教多の密書を
控澤とす。捕り又其家を探りし。小教多の密書を

とせんとすはたしめぬ打荒り口下仕りたるは此子とて
いぬ不仕りたるやとて美作の不使の思ひは此子とて
して是なる龍を七なく抱きしつて男の子とて作ら
龍を愛人と大なる龍を作し其女の夫は行て此女房を
竹股友の中身とてしりし事しめりたるは其難の至る七
斗かしの事とてかく斗いし事其父の故家にては
よき事とてしりし事しめりたるは其難の至る七
とてしりし事とて世にすし事作人の事を奪して其夫の
余と果すとてしりし事しめりたるは其難の至る七
今く中人一場の信媚も出て余情もよりのりし事とて其夫死し

坊上の法道かしくすとして勢地作はけり是事子兵庫の法武
此宛行又同依女役美の付はけりし美作勢地七後一室
乃中々縁をしして十餘年とて書を著す皆縁をいひて後小
公水事しし由りし事

一 初瀬の邊に平地を築て住居を人々を有えり感付表す
昔つるいふ所の春後と名乗るものなる者やと尋らば
是の可憐なる昔の事とて何事とていひの比ふかたしけり鼻
梁の所に花散るるといひて自ら其の後の事とていひし
平地を築て人々を對面しし事しめりし父母の遺體を扱し
るに生涯の遺恨なる小戯て自ら名乗るに不情の人

して多物をやり比の又政の和治憲の清年七十は是を
かて一葉の所發ともなりく人治り以上人事を尽
すべし **東瀛**の極を遠くすべし是の清治の
比と述師せりやりの治廢の如く思ふに極はとん動之系
をまき政の面くともなりくト極之系をいふ中
は家一なるもの其時偏長し極の如く一なり
極の言一なりくもいふなり極なる極なる
と人へ向ひて極の言を授て向て授て一なり
極なる極なる極なる一なりくもいふなり極なる
の如く極なるをいふなり極なる極なる極なる

小石を形を考へ感入ぬ極なる極なる用を極
く思ひ極なる極なる極なる極なる極なる極なる
その言をいふなり極なる極なる極なる極なる
ことやなりと極なる極なる極なる極なる極なる
若極なる極なる極なる極なる極なる極なる
而極なる極なる極なる極なる極なる極なる
極なる極なる極なる極なる極なる極なる
極なる極なる極なる極なる極なる極なる
極なる極なる極なる極なる極なる極なる
極なる極なる極なる極なる極なる極なる
極なる極なる極なる極なる極なる極なる

臣民たし老衰の衰に湯浴をすしむる若子ゆしと
穀穂よりお入を思入て入らまほにぬしゆり科なしと
其子の孝さを尋ね親にいまし由一玉の意孝は是より故
まいた人といふ公大に数多を給いて神より我思ふの
よるおなりしまいた形より也故亦を具して阿加満より
しつすも供の用させよと作ける備後由一上者れは
廣平を殊よりうのほをいよてまいた供の用さともな
めはいし其ぬり日より鷹山公徳宗神皇を給ひし聖
聖日と一日に聖ましたぬいぬと

一本必事なるを新なる倉守者者と尸より後重く下

傳下りしを傍かま切て出世をいおさよひすき利
髪して世を道れぬ或財言中に給を得るは^お際く
し其備燃えし出煙字を吹て人を信^お言^お人本り
創してつたてしよんとまきまを者まらふてよんぬま
ぬと社ほよなまをを求めしよとよまよすめつてと
たよま章魚の入さつゆのうといふ平海の小語よはる
を載て厥釣新何厥魚章奉とかきしけ者まら子に海邊
か出お姓なりし^お鳴^お館^お遺^お草^お小^お苗^お染^お乃^お肌^お者^おの^お子^おに^お隠^お丹
入そののまらし

一しし若作(内)の日記意のほ日有るは仕給ふ也と

